

---

# ちっちゃんうさぎ

把 多摩子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ちっちゃなうさぎ

### 【Nコード】

N1687U

### 【作者名】

把 多摩子

### 【あらすじ】

愛を渴望する、うさぎの話です。

他サイトからの転載になります

寂しいウサギ、一人ぼっち  
1人で泣いて、お目は真っ赤  
お目目真っ赤で、震えてる

『誰か、傍に、居てください……』

ちっちゃなウサギは恋をした。  
ちっちゃな身体で精一杯恋をした。  
けれども、相手はウサギが憎くて  
ついにウサギを殴り捨てました。

愛することが幸せだった、ちっちゃなウサギ。  
痛めつけられ、疲れ果てたその身体で、  
ちっちゃなウサギはふと、月を見上げました。

「……愛してくれるなら、誰でもいいのです」  
ちっちゃなウサギは、望まないことにした。  
愛を渴望するから、あんなことになった。  
ちっちゃなウサギは、声をかけてくれる人に  
精一杯の笑顔を振り撒きました。

「だって、嘘でも遊びでも、傍にいてくれるんだもの」  
可愛いだとか、いい子だとか、言われてウサギは微笑んだ。  
頭を撫でて貰えて、嬉しそうに彼らに懐いた。  
愛するよりも、愛されたい。

ちっちゃなウサギは、誰でも良かった。

傍にいて、適度に構ってくれるのなら。

嘘でも構わない、傍にいてくれるのは事実。

遊びでも構わない、傍にいてくれたのは事実。

愛することに、疲れたのです……。

だって、ウサギは寂しすぎると死んでしまうから。

ウサギは、満たされました。

けれど、本当に心の底から満たされていたわけではありませんでした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1687u/>

---

ちっちゃなうさぎ

2011年10月9日06時15分発行